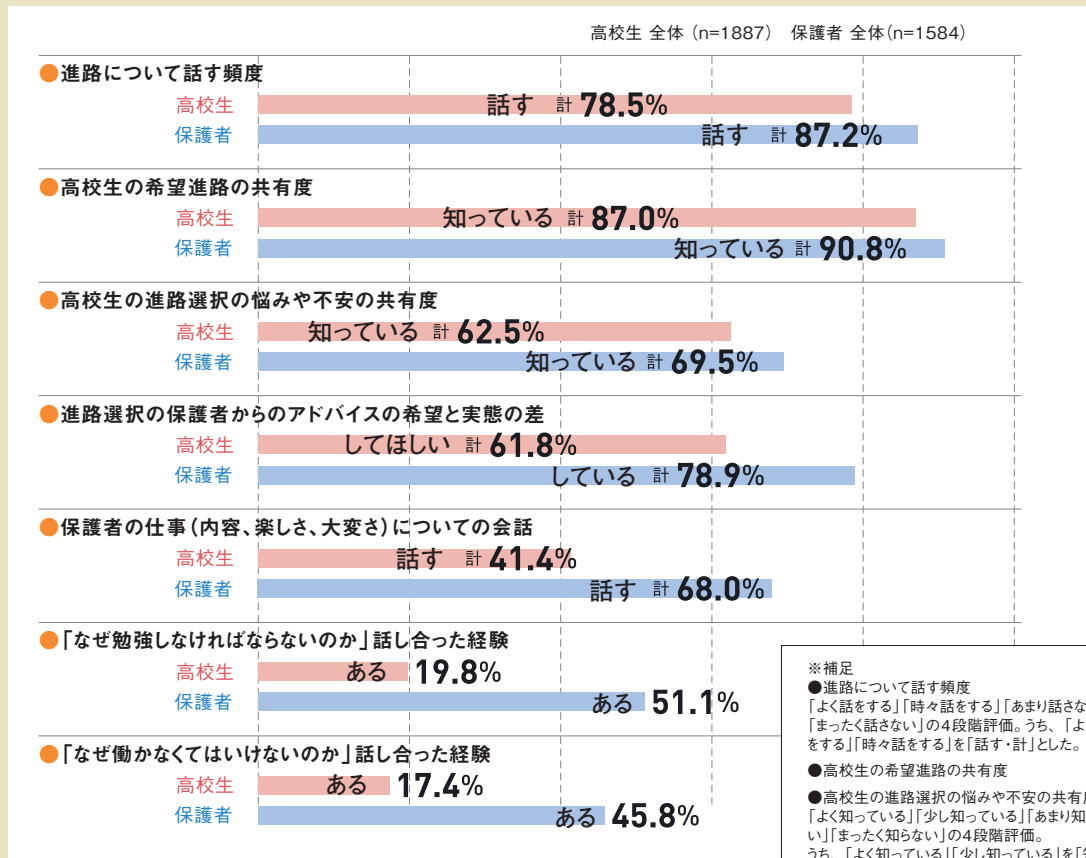


保護者は「話しているつもり」より深いテーマで顕著に

高校2年生秋の時点での進路についてのコミュニケーション状況について尋ねた。話す頻度では、高校生は79%、保護者は87%が「話す」と回答。希望進路の共有度は親子とも約9割が、悩みや不安の共有度は、高校生の6割、保護者の7割が「知っている」と回答しており、親子のコミュニケーションはおおむね良好なものの、保護者のほうが現状を高く評価していることが見てとれる。

その傾向がさらに強いのが、「保護者の仕事についての会話」。高校生の41%に対し、保護者の68%が「話す」と回答。「なぜ勉強しなければいけないのか」「なぜ働かなくてはいけないのか」は、保護者は約5割が話したことが「ある」と回答したが、高校生はいずれも2割に満たなかった。やや深いテーマの会話については、保護者は伝えているつもりだが、高校生の耳には届いていないというギャップがみられる結果となった。

図1 保護者と高校生のコミュニケーションの状況 (高校生・保護者/各単一回答)



※補足  
 ●進路について話す頻度  
 「よく話す」「時々話す」「あまり話さない」「まったく話さない」の4段階評価。うち、「よく話す」を「話す」とした。  
 ●高校生の希望進路の共有度  
 ●高校生の進路選択の悩みや不安の共有度  
 「よく知っている」「少し知っている」「あまり知らない」「まったく知らない」の4段階評価。うち、「よく知っている」「少し知っている」を「知っている」とした。  
 ●進路選択の保護者からのアドバイスの希望と実態の差  
 ○高校生  
 「たくさんアドバイスしてほしい」「ある程度アドバイスしてほしい」「あまりアドバイスしてほしい」「アドバイスはらない」の4段階評価。うち、「たくさんアドバイスしてほしい」を「してほしい」とした。  
 ○保護者  
 「よく知っている」「少し知っている」「あまり知らない」「まったく知らない」の4段階評価。うち、「よく知っている」「少し知っている」を「知っている」とした。  
 ●保護者の仕事(内容、楽しさ、大変さ)についての会話  
 「よく話す」「時々話す」「あまり話さない」「まったく話さない」の4段階評価。うち、「よく話す」「時々話す」を「話す」とした。  
 ●「なぜ勉強しなければならないのか」話し合った経験  
 ●「なぜ働かなくてはいけないのか」話し合った経験  
 「ある」「ない」の2段階評価。

▼ フリーコメント 1 仕事について保護者が話していること【高校生】

- 今日のできごと、大変だったことや楽しかったこと。[群馬県/女子/専門学校]
- 上下関係、やりがい、大変なこと。どんな人が必要な人材なのか。[宮城県/女子/大学]
- 世の中、やりたい仕事をできている人は、ほんの一握りしかないことなど。[北海道/男子/大学]
- 私は「仕事をするのは楽しそうだ」と言っているけど、現実は大変だということ。[広島県/女子/大学]
- 収入、上司や後輩との接し方、年齢の上の人からどのように技術を盗むのか方法など。[東京都/男子/就職]
- 主に不満を聞く。南米やアジア系の人働いているので言葉が伝わらなったり、会社での人間関係のいざこざを聞く。[三重県/女子/大学]
- 忘れました。[宮城県/男子/大学]

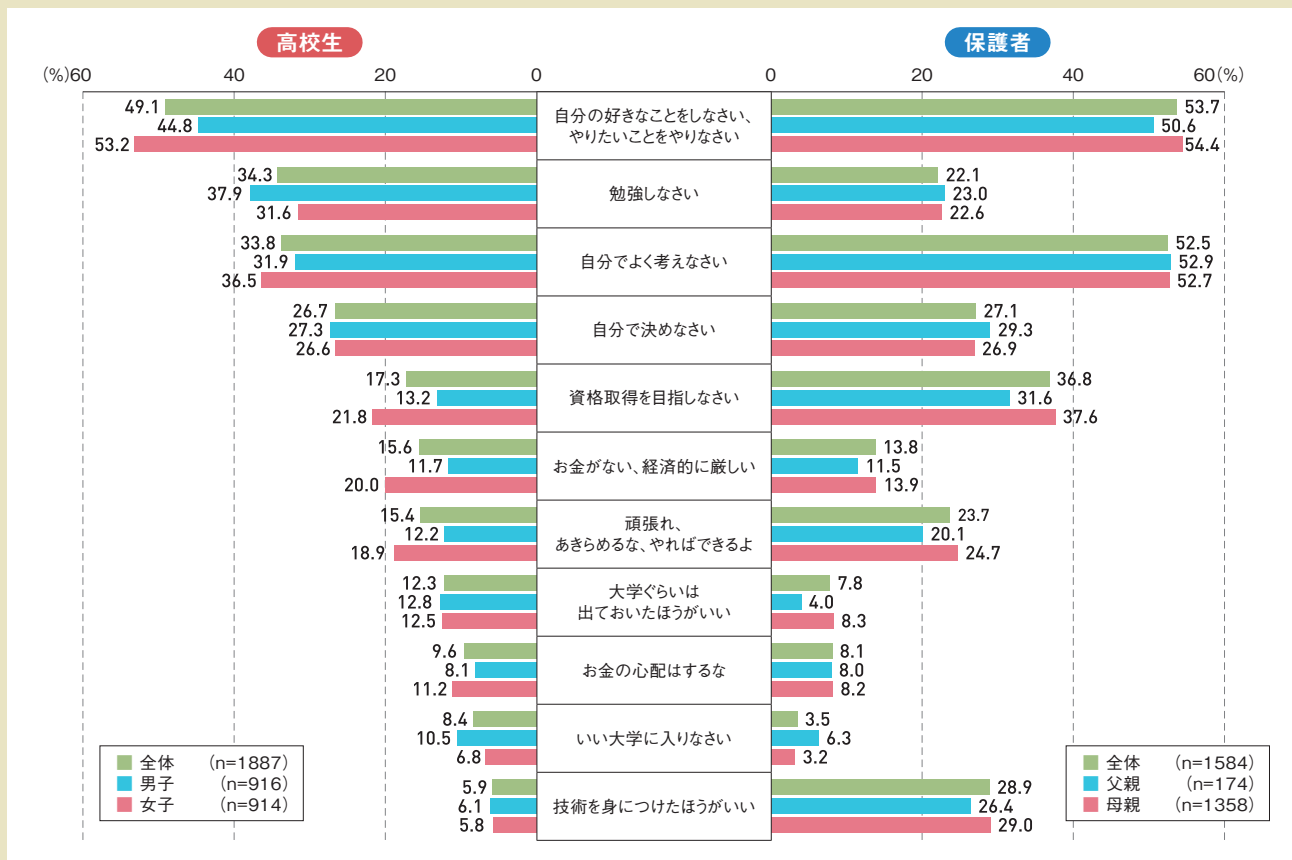
※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は[都道府県/性別/希望進路]

「届きすぎの「勉強しなさい」「届かない「資格取得」と「技術習得」

進路の話をする時、保護者はどんな言葉を使うのか。高校生・保護者それぞれにあてはまる言葉をすべて選んでもらった。回答のトップは高校生・保護者とも「自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい」。そのほかは認識にギャップがみられる項目がある。「勉強しなさい」は保護者が言っている以上に高校生は言われている印象をもっている。逆に「自分でよく考えなさい」「資格取得を目指しなさい」「技術を身につけたほうが良い」は保護者が伝えていると思っているほどには高校生には届いていないようだ。

高校生に保護者の言葉をどう感じるかを書いてもらった。「好きなことをしなさい」「自分でよく考えなさい」「自分で決めなさい」に対して、自分の意思を尊重してくれて「ありがたい」「夢を叶えようと思う」と肯定的に捉える意見がある一方、「一緒に考えてほしい」「心細い」などアドバイスを求める意見も上がった。「資格取得を目指しなさい」も何の資格がよいかアドバイスを求める意見がみられた。

図2 進路選択について話すときに保護者がよく使う言葉 (高校生・保護者 / 複数回答)



▼ フリーコメント 2 保護者の言葉をどう感じるか【高校生】

- 自分の好きなことをしなさい、やりたいことをやりなさい
  - きちんと大学を出て夢を叶えようと思う。[福岡県/女子/大学]
  - 勝手に自分の将来を決められないのでありがたい。[東京都/男子/就職]
  - ありがたいが、明確な目標がないのもっとアドバイスなどがほしい。[福岡県/女子/大学]
  - 自由に決めていいのはうれしいが、私の進路の悩みを聞いてほしいし、一緒に考えてほしい。[三重県/女子/大学]
  - そう言われると逆に迷う。[福井県/男子/大学]

- 勉強しなさい
  - しようとするときに、その言葉を言われてやる気を失う。何か信用していない感じがする。[福岡県/男子/就職]
  - 勉強しているのに、言われるのが、少し不満に思う。[福岡県/女子/大学]
  - とりあえずは勉強することが優先だから、頑張らなくてはと思う。[群馬県/男子/専門学校]
- 自分でよく考えなさい
  - 考えてもわからないから聞いているのに、そんなことを言われたら、本当にどうしていいかわからない。[宮城県/女子/就職]

- 自分に任されていて、自分の力で将来を切り開かなければならないのだと責任を感じる。[宮城県/男子/大学]
- 自分で決めなさい
  - やりたいことをやらせてもらえると思う反面、少し、心細くなる。[福岡県/女子/大学]
- 資格取得を目指しなさい
  - 女の人の場合は、結婚や妊娠などがあるので、一生仕事できるように資格をとる必要があるなと思った。[兵庫県/女子/大学]
  - 必要だとは思いますが具体的に何を取ればいいのかよくわからない。[福井県/男子/大学]

# 父親と母親の存在感

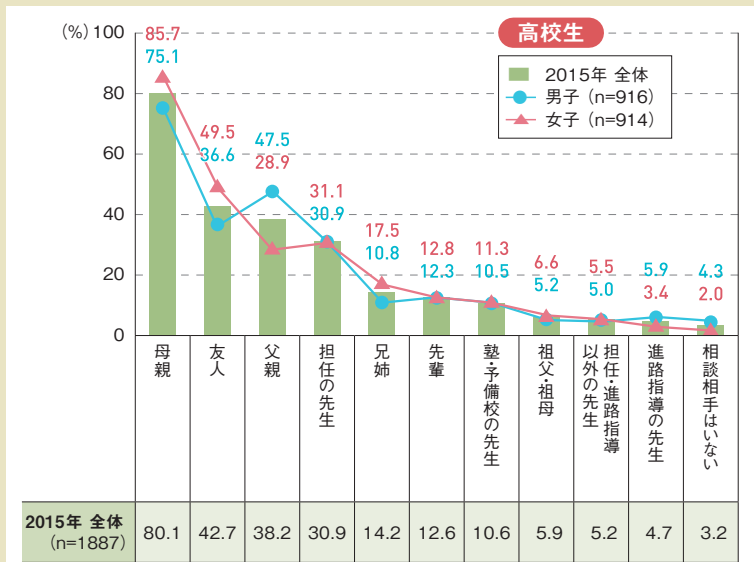
## 影響を受ける人 男子も女子も母親が1位

高校生は進路について誰と相談しているかを尋ねたところ、「母親」が80%と突出、約4割の「友人」「父親」が続いた。性別にみても男女ともにトップは「母親」、2番目に、男子は「父親」、女子は「友人」が続く。

一番の相談相手に関しての理由は、「母親」は親近感、「父親」は冷静な判断や的確な答えなど、アドバイスの期待を感じさせる意見が目立った。進路について影響を受ける相手としても「母親」が最も多く、2位には「父親」が続いた。性別にみると、男子は「父親」をあげる比率が女子に比べて高いものの、やはり一位は「母親」となった。進路について一番影響を受ける相手について理由を尋ねると、「母親」は相談相手の理由と同じく親近感、「父親」は父親の職業へのあこがれなどの意見がみられた。

## 子どもの進路選択への 関与を増やそうとする父親

図3 進路について相談する人 上位10項目 (高校生/複数回答)



### ▼フリーコメント 3

#### 一番の相談相手と、そう思う理由 [高校生]

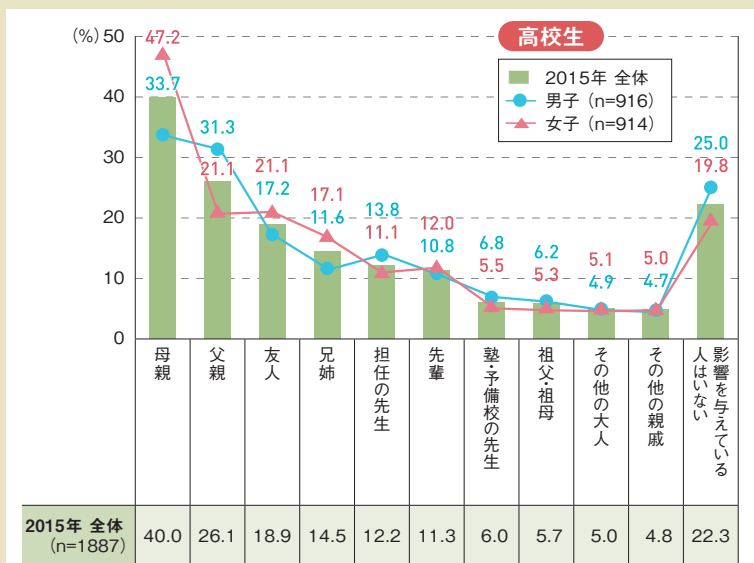
##### ■母親

- 一番真剣に聞いてくれるから。[北海道/男子/大学]
- 一番自分のことをわかってきているから。[三重県/女子/就職]
- 一番長い時間を過ごしてきた私の気持ちを察してくれる。[福岡県/女子/大学]

##### ■父親

- 家族という一番近い人の中で、一番的確な答えが返ってくる。[広島県/男子/大学]
- 一番私の進路について調べてくれている。[東京都/女子/その他]
- 冷静に判断してくれるから。[広島県/男子/大学]

図4 進路について影響を受ける人 上位10項目 (高校生/複数回答)



### ▼フリーコメント 4

#### 一番影響を受けている人と、そう思う理由 [高校生]

##### ■母親

- 一番多くアドバイスをもらっているから。[北海道/男子/大学]
- 一緒によく考えてくれるから。[兵庫県/女子/大学]
- 仕事の話をよくしてくれている。[宮城県/女子/短大]

##### ■父親

- 父の職業にあこがれたから。[東京都/女子/大学]
- 父みたいに勉強して大きい会社で働きたい。[群馬県/男子/就職]
- 働くことの厳しさを教えてくれるように思うから。[三重県/女子/専門学校]
- 父の姿を見て決めたから。[北海道/男子/大学]

進路選択の悩みや不安を知っているか、父親と母親で比較したところ、父親は58%、母親は71%が「知っている」と回答。また、自分の仕事の内容・楽しさ・大変さの話をしているかは、父親の54%、母親の71%が「話す」と回答。いずれも母親が父親を大きく上回り、子どもの心の理解や仕事についての会話とも、母親が父親を大きく超えている。

一方、進路選択行動への関わり方について「行ったことがある」「行ったことはないが今後行いたい」の回答を合計すると、父親が母親を上回る項目があった（全体結果はp.17参照）。「就職か進学かを選ぶ際のアドバイス」や「大学か短大か専門学校かを選ぶ際のアドバイス」についてだ。現状では、父親は母親より子どもの進路選択への関与が薄い。今後関わりたいという意向が垣間みられるといえるのではないかな。

保護者が話している仕事の内容は、コメントを見る限り父親、母親に大きな差はなく、仕事の「やりがい」「楽しさ」のほか、「稼ぐことの大変さ」や「人間関係の厳しさ」を伝えた上で「家庭を守るため」「必ず評価してくれる」などやりとげることの大切さを伝える記述が挙げられた。

図5 進路選択の悩みや不安を知っているか（保護者／単一回答）

保護者	知っている・計		知らない・計		無回答	（%）	知っている・計	知らない・計
	よく知っている	少し知っている	あまり知らない	まったく知らない				
父親 (n=174)	20.7	37.4	37.9	3.4	↓	0.6	58.0	41.4
母親 (n=1358)	22.5	48.5	25.3	2.7	↓	1.0	71.1	27.9

図6 自身の仕事の内容・楽しさ・大変さの話をしているか（保護者／単一回答）

保護者	話す・計		話さない・計		無回答	（%）	話す・計	話さない・計
	よく話す	時々話す	あまり話さない	まったく話さない				
父親 (n=174)	13.8	40.2	41.4	4.0	↓	0.6	54.0	45.4
母親 (n=1358)	23.2	47.6	26.2	1.5	↓	1.5	70.8	27.7

図7 進路選択行動への関わり方（保護者：子どもを進学させたい希望者／各単一回答）

保護者		n	行ったことがある	行ったことはないが、今後行いたい	行ったことはなく、今後も行うつもりはない	無回答	（%）
			就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする	父親 (n=104)	62.5		
	母親 (n=811)	60.2	20.2	15.9	↓	3.7	
大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする	父親 (n=104)	52.9	26.9	17.3	↓	2.9	
	母親 (n=811)	55.5	21.9	19.0	↓	3.6	

▼ フリーコメント 5 仕事の内容・楽しさについて 高校生に話していること【保護者】

■ 母親

- やりがいのある感動的なことや、おもしろかったことなど。[北海道/母親/男子]
- 何の仕事でも、人とかかわりてつながっているの、感謝の気持ちを常に持つことの大切さ。[福岡県/母親/男子]
- 仕事の内容、嫌なことがあっても笑顔で頑張らないといけな。納得いかないこともはいとてする時も出てくる。頑張れば誰かが必ず評価をくれる。[兵庫県/母親/男子]

- 仕事のやりがい、会社としてのあり方、他人と応対することの難しさ。[三重県/母親/女子]
- どんな仕事にも価値がある。責任のある仕事ほど、報酬が多い。苦しいことでも、投げださず、完遂しなければならない時がある。[北海道/母親/女子]
- お金を頂く以上はプロ。恥ずかしくない仕事をしなければ。[福井県/母親/男子]
- 父親
- 失敗、成功の差はあれ、考えて仕事する楽

- しさを伝えている。[北海道/父親/女子]
- 仕事は働いてお金をもらう。どのような職業でもそれぞれ大変なことがある。[宮城県/父親/女子]
- 人間関係の厳しさ、それでも家庭を守るためには仕事をしなければならないこと。[群馬県/父親/男子]
- 見た目とか評判に左右されずに就きたい職を選んでほしい。職業に良い、悪いはない。[広島県/父親/男子]

※フリーコメント末尾のカッコ内の表記は[都道府県/続柄/子どもの性別]

# 進路にまつわる期待と不安

**7割の高校生が将来に「不安」  
過半数が「学力」に気がかり**

高校生に進路を考えたとき、どんな気持ちになるかを尋ねたところ、「楽しい気持ち」「どちらかという」と「不安」「不安な気持ち」を合わせた「不安」は72%で、「楽しい」を大きく上回った。性別による大きな違いはみられない。

進路選択について気がかりをすべて選んでもらったところ、「学力が足りないかもしれない」が55%と突出。ついで「自分にあっているものかわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」が3割台で続く。

**就職前を案じる保護者と、  
就職後を案じる高校生**

将来働くことについて気がかりがあるか尋ねたところ、高校生で気がかりが「ある」は67%。女子は男子よりも「ある」が多い。子どもが働くことについて気がかりが「ある」保護者

図8 進路を考えたときの気持ち (高校生/単一回答)

高校生	楽しい・計		不安・計		考えたことがない	無回答	楽しい・計 (%)	不安・計 (%)
	楽しい気持ち	どちらかという楽しい気持ち	どちらかという不安	不安な気持ち				
2015年 全体 (n=1887)	7.5	14.7	41.1	31.2	4.7	0.8	22.3	72.2
性別 男子 (n=916)	7.8	14.6	41.0	30.3	5.6	0.7	22.4	71.4
性別 女子 (n=914)	7.1	14.8	41.5	32.4	3.7	0.5	21.9	73.9

図9 進路選択についての気がかり (高校生/複数回答)

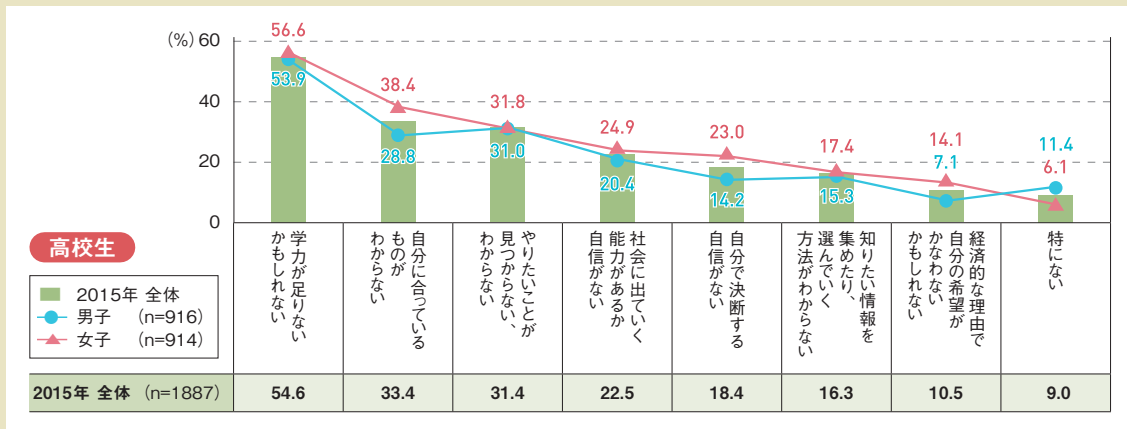


図10 将来働くことについての気がかり (高校生・保護者/単一回答)

高校生	2015年 全体 (n=1887)	ある	ない	働くことについて考えたことがない	無回答	(%)
2015年 全体 (n=1887)	67.2	25.1	5.6	2.1		
性別 男子 (n=916)	64.1	28.3	6.4	1.2		
性別 女子 (n=914)	72.4	21.8	4.5	1.3		
保護者	2015年 全体 (n=1584)	63.7	30.2	2.0	4.0	
続柄別 父親 (n=174)	63.2	31.6	2.3	2.9		
続柄別 母親 (n=1358)	64.1	30.6	1.9	3.5		

※保護者は「子どもが将来働くことについて」の回答

は64%で、父親と母親に差は見られない。  
 高校生・保護者それぞれに具体的な気がかりをすべて選んでもらった。高校生と保護者のいずれも、1位「就きたい職業に就くことができるだろうか」、2位「職場の人間関係がうまくいくだろうか」である。3位には、保護者は「就きたい職業が思いつくだろうか」、高校生は「十分な収入が得られるだろうか」が続く。保護者は1位が突出、3位も就職前の気がかりである。高校生は1〜3位が約5割のスコアで並んでおり、2・3位は、就職後の気がかりに関する内容である。  
 また、これからの社会は高校生にとって好ましいと思うかを尋ねたところ、「好ましい・計」は、今回高校生48%、保護者28%と2013年よりも増加した。  
 これからの社会を「好ましい」と回答した理由をみると、高校生は「東京オリンピック」「グローバル化」「女性の社会進出」といった回答が目立つ。一方、保護者は、「雇用」「社会保障」などを危惧しながらも「好ましい社会であってほしい」という願いを込めた回答が挙げられている。

図11 働くことについての気がかりの内容 (高校生・保護者：図10=気がかりが「ある」回答者／5つまで回答)

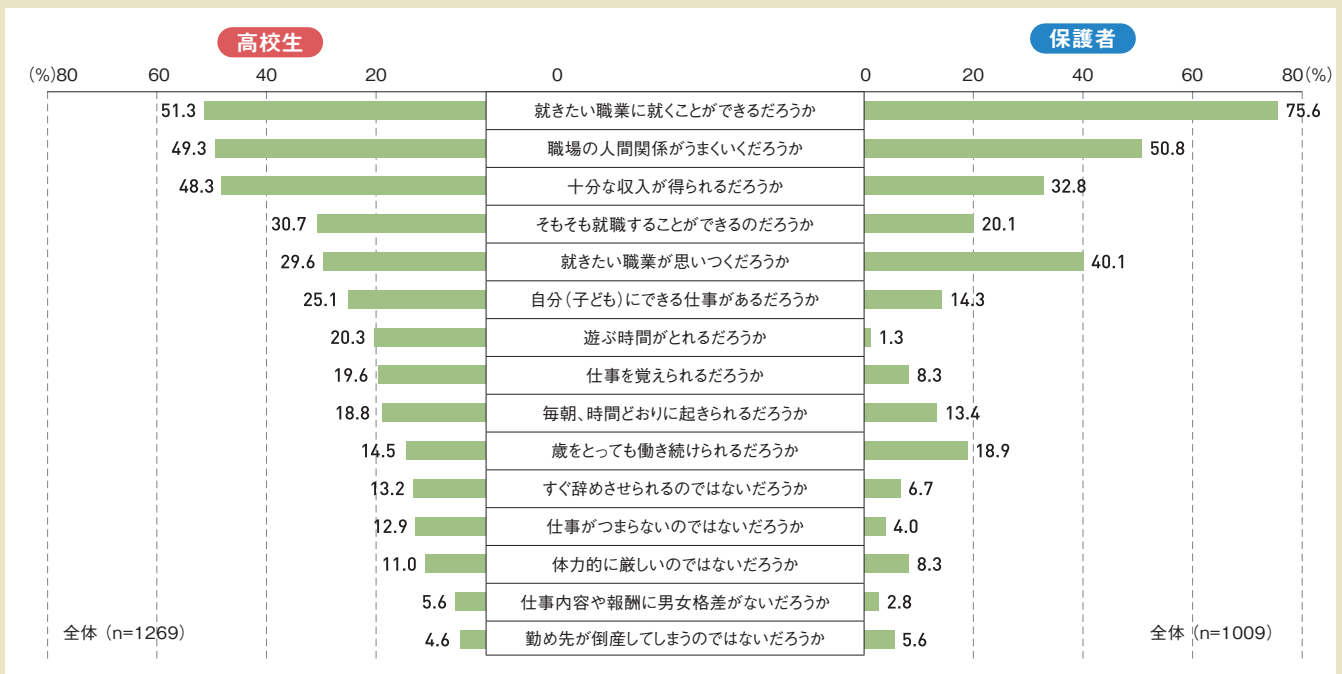
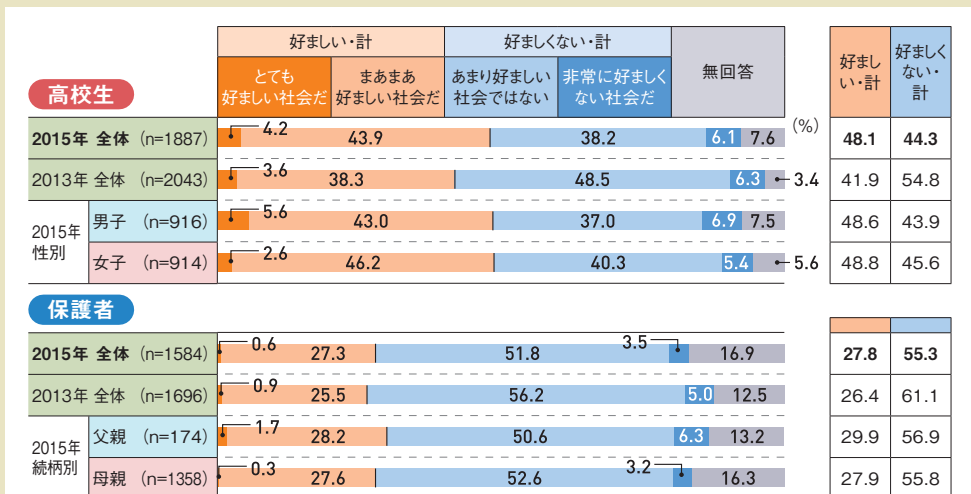


図12 未来社会についての認識 (高校生・保護者／単一回答)



▼ フリーコメント 6

これからの社会について思う理由【未来社会について「好ましい」回答者】

- 高校生：とても好ましい
  - グローバル化が進み、もっと多くの人とかわることができる。[東京都/男子/専門学校]
- 高校生：まあまあ好ましい
  - 女性が働きやすい社会になってきている。[広島県/女子/大学]
  - オリンピックがあり、景気が良い時に就職できるから。[兵庫県/男子/大学]
- 保護者：まあまあ好ましい
  - どんな状況でもそこで生きていく人になってほしい。[広島県/母親/男子]
  - 希望を持ってほしいので、そう思いたい。[三重県/母親/男子]

進学校に多くなる、保護者が「干渉する」と感じる高校生

高校生に進路選択に関する保護者の態度を尋ねたところ、63%は「ちょうどいい」と回答。24%は「干渉」、11%は「無関心」と感じている。大短進学率別にみると、進学率40%未満の高校に所属する高校生は「ちょうどいい」、進学率70%以上は「干渉」と感じる割合が高い。

保護者にしてほしいこと、やめてほしいことを高校生にすべて選んでもらい、進路選択に関する保護者の態度別にみた。

干渉と感じている高校生は、「考えを尊重すること」「放っておいてくれること」「話をちゃんと聞くこと」を望んでおり、「勉強や成績の話ばかりする」「望みを高く持たれる」「考えの押しつけ」「プレッシャーをかける」などをやめてほしいと思っている。

一方、無関心と感じている高校生は、「具体的なアドバイス」「話をちゃんと聞くこと」「関心を持つこと」を望んでおり、「勉強や成績の話ばかり

図 13 進路選択に関する保護者の態度 (高校生/単一回答)

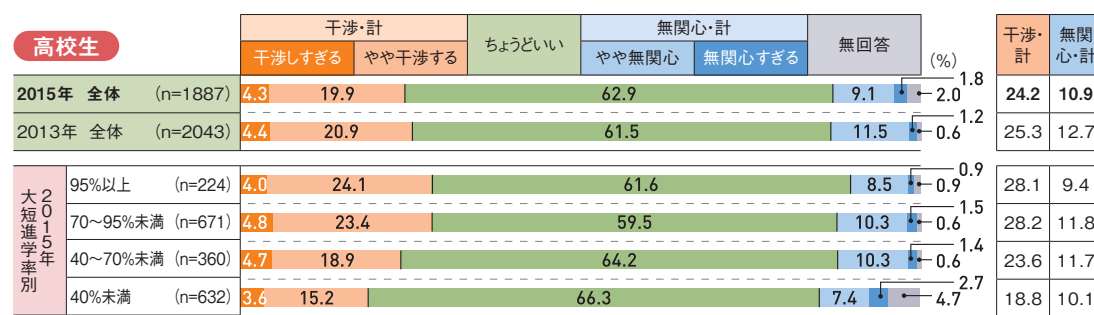


図 14 保護者にしてほしいこと (進路選択に関する保護者の態度別/高校生/複数回答)

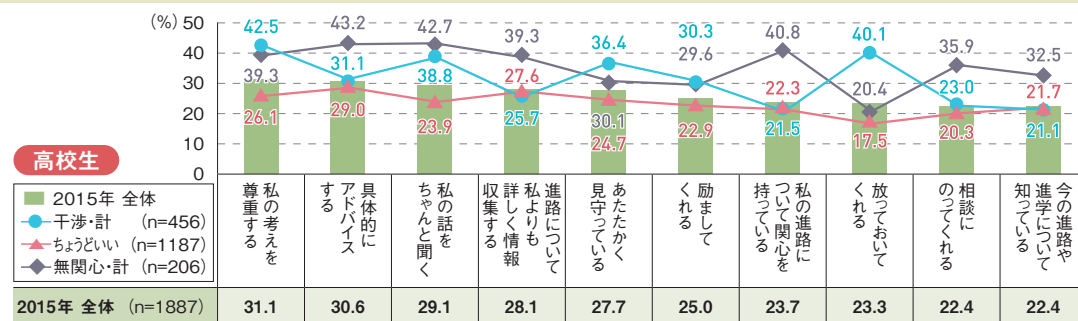
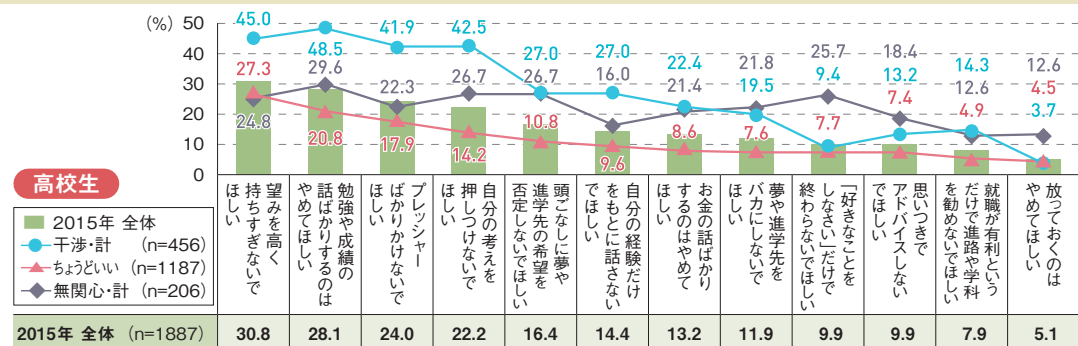


図 15 進路を考える上で保護者にやめてほしいこと (進路選択に関する保護者の態度別/高校生/複数回答)



「行ったことがある」「行ったことがないが、今後行いたい」「行ったことがなく、今後行ってもいい」という3つの項目に保護者はどう関わっているか尋ねた。「行ったことがある」が多い行動は、「就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする」「将来の職業をアドバイスする」「子どもに合う分野をアドバイスする」「子どもに合う学校をアドバイスする」が5割を超える。

「行ったことはないが、今後行いたい」の上位は、興味をもった学校の「入試方法を調べる」「資料請求をする」などの具体的な進路選択行動である。また「行ったことがある」「行ったことはないが、今後行いたい」を合わせるとういずれの項目も2013年よりも高い。特にアドバイスに関する項目はすでに行った割合が増加している。

子どもの進路選択に自らかかわる理由は、「子どもと一緒に考えたい」「具体的な情報を知らない」と会話ができない」の二つが突出して高い。

「今後行いたいのは」「入試方法を調べる」「資料請求」

図16 進路選択行動への関わり方 (保護者：子どもを進学させたい希望者／各単一回答)

保護者	2015年 全体 (n=946) 2013年 全体 (n=996)	行ったことがある				行ったことはないが、今後行いたい				行ったことがなく、今後行ってもいい				無回答		行った・行う意向・計 (%)
		行ったことがある	行ったことはないが、今後行いたい	行ったことがなく、今後行ってもいい	無回答	行ったことがある	行ったことはないが、今後行いたい	行ったことがなく、今後行ってもいい	無回答	行ったことがある	行ったことはないが、今後行いたい	行ったことがなく、今後行ってもいい	無回答			
就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする	2015年 59.9 2013年 51.1	20.2	15.2	4.7	80.1	19.3	21.2	8.4	70.4							
将来の職業をアドバイスする	2015年 58.5 2013年 53.4	27.4	9.3	4.9	85.8	26.6	12.1	7.8	80.0							
子どもに合う分野をアドバイスする	2015年 57.1 2013年 57.5	29.9	8.8	4.2	87.0	24.4	10.8	7.2	81.9							
大学か短大か専門学校かを選ぶ際にアドバイスする	2015年 54.8 2013年 48.8	22.1	18.6	4.5	76.8	21.8	21.4	8.0	70.6							
どんな学部、学科、コースがあるかを調べる	2015年 46.0 2013年 44.1	40.9	9.2	3.9	86.9	38.9	10.1	6.9	82.9							
子どもに合う学校にどんな学校があるかを調べる	2015年 44.6 2013年 41.1	41.5	9.6	4.2	86.2	39.8	11.7	7.4	80.8							
興味をもった学校の見学に行く(オープンキャンパス・学校見学会を含む)	2015年 32.6 2013年 28.2	47.5	15.9	4.1	80.0	46.5	17.9	7.4	74.7							
具体的な受験校を子どもにアドバイスする	2015年 32.5 2013年 31.2	46.6	16.5	4.4	79.1	42.1	18.5	8.2	73.3							
興味をもった学校の入試方法を調べる	2015年 30.2 2013年 28.3	56.1	9.5	4.1	86.4	52.9	11.2	7.5	81.2							
興味をもった学校の資料請求をする	2015年 27.2 2013年 22.9	51.6	16.4	4.9	78.8	50.1	19.4	7.6	73.0							

図17 保護者が進路選択行動に自ら関わる理由 (保護者：子どもを進学させたい希望者、かつ図16のいずれか「行ったことがある」「今後行いたい」回答者／複数回答)

